

総合計画を評価する視点

—芽室町総合計画審議会—

北海道大学公共政策大学院

山崎幹根

はじめに

- 「外部評価」の意味はどこにあるのか 前提としてのPDCAサイクル
- 住民参加型の総合計画の点検評価を行うことの意義。他自治体では見られない芽室町の良き伝統
- 住民による「外の目」の重要性（レイマン・コントロール）。
- 絶対的、客観的な評価の方法・基準がないことに留意。
- ベターな方法を使うことに対する合意を形成することの重要性。

1、 施策評価のアプローチ — 施策評価する視点

①ふつうの住民の視点

②民間（納税者）の視点

③自治の担い手、協働の担い手としての視点

・ひとつの施策を3つの視点から見直してみると・・・

2、 評価シートをどのように読み解くか — 「数」の評価と「質」の評価

①目標値が達成されているか、未達成か。

- ・ 「その要因は何か」を考えることが重要。
- ・ 「数字の一人歩き」への留意

②比べてみる

- ・ 時系列比較（経年の比較）
- ・ 参考として他の自治体の傾向・施策事業との比較 一類似自治体、近隣自治体の動向

③住民の側から考慮すべき点、町政へのかかわり方

- ・ 自治の「質」を高めるために

3, いくつかの質問にお応えして・・・

- 1, 客観的・絶対的評価というよりも、定性的な要素を含んだ合議による評価
 - ・ 完全な合理性・体系性が確立しているわけではない、政策情報把握の限界
 - ・ 合意形成のプロセスが重要

- 2, 住民意見の反映のされ方
 - ・ 予算への反映を伴わない改善もある（業務運用や手続き、情報共有など）。
 - ・ 意見が反映されないことに対する説明責任の確保

- 3, 役場による評価への追認や、Cに寄りすぎないように留意。

4, はじめの手がかりとして・・・

- ① 先ずは、分からないこと、不明な点をなんでも尋ねてください。数字の意味、具体的な事業の内容など・・・
 - ・ 現状を理解するための貴重な機会

- ② 一住民の立場から、遠慮なく意見を出してください。議員さんとの違い。

- ③ 特段の準備は必要ありません。可能であれば「すまいる」や町の公式HPに目を通しておくと、施策のイメージを具体的に持つことが容易に。

